

課題 ①

漁港利用者 漁船・水産事業者

しゅんせつ工事時期が遅れると、漁港内の土砂堆積により、船の航行に支障をきたす。

自治体の年度予算の都合で、2年間漁港が使えなかったこともある。

課題 ②

漁港管理責任者 都道府県等 地方自治体

全ての魚港や港湾は、不定期にしゅんせつ工事を必要とするが、工事計画を策定するための数値根拠が乏しい。

関係者への説明に苦慮し、庁内稟議にも時間を要している。

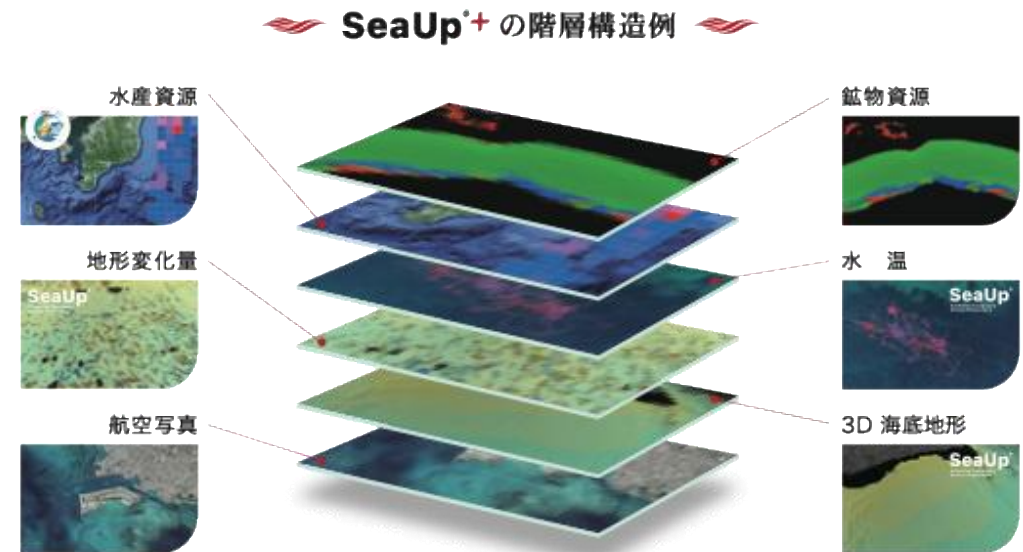
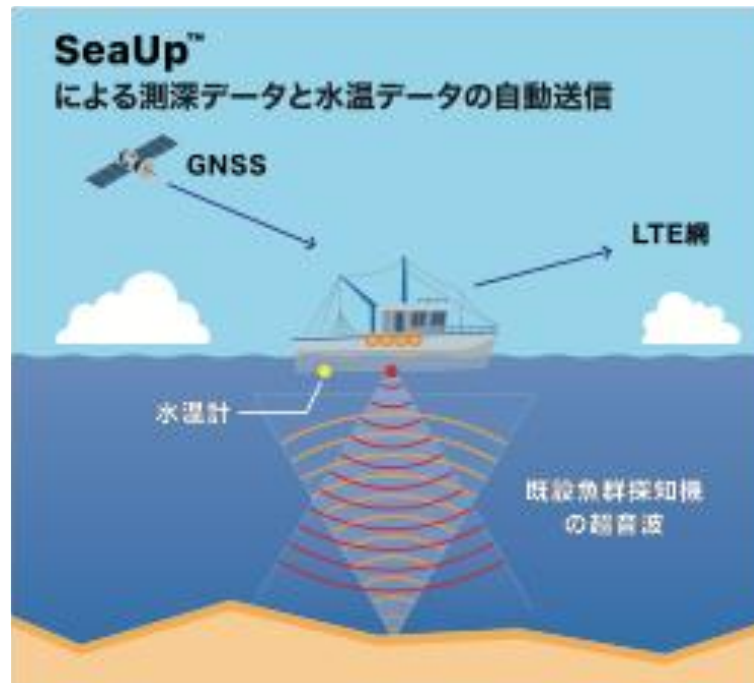
技術・ソリューション： 漁船データをビッグデータ化「SeaUp」 海のGIS「SeaUp+」

SeaUp[®]
Submarine Topography
Surface Temperature

漁船内の**既存の魚群探知機**を利活用。
水深情報と水温センサー等の
漁船データをアップサイクルし
現場で役立つ精度の海底地形情報や
環境情報をクラウド化します。

SeaUp⁺
Submarine Topography
Surface Temperature
Payco Navi 2021

環境情報や水産・鉱物等の海洋資源を
管理・加工し、空間的にWEBアプリで
可視化する**海のGIS**。
仮想化情報と地理的情報を融合した
海中のデジタルツインを提供します。



海中のデジタルツインとビジネスモデル

水産事業者

緯度
経度

水温
水深

漁船データのクラウド化

メリット1（社会課題の解決）

- 土砂堆積状況を定量的に把握
- 漁港利用の安全性向上
- 工事コストの削減を実現

メリット2（漁業者の動機づけ）

- 漁場の3Dマップにより
漁業の生産性を向上させる

地方自治体

メリット3（仮想空間利用）

- 海中のデジタルツイン化
- 構造物や藻場を仮想化

メリット4（気候変動対策）

- 海水温の経年変化を共有

養殖事業者

漁業事業者

研究団体

